

イスラム・テロリズム：38年越しの我々の盟友

【訳者注】アメリカ（とその同盟国）にとって、テロリストは大事にすべき財産だが、同時に撲滅すべきものでもあるというという事情を、詳しく説明している。特に、CIA の作ったイスラム主義学校低学年用の教科書などは貴重である。この狡猾なごまかしや、“テロとの戦い”を言い出した者が最大のテロリストであることなど、今は知らない者はなくなった。しかし、それを口にしてはならないことも誰でも知っている——あたかもハシタナイことのように。ジョージ・オーウェルの言う **double-think**（二重思考）が、こんなに見事に板につくとは思わなかった。この論文の皮肉で微妙な調子をよく味わっていただきたい。二重思考文体というべきものである。（例えば、「悪辣な”プーチン”と普通 “——” に入れるところを、わざとはずしてある。）

Chris Kanthan

June 14, 2017, Information Clearing House



私はこの話を、アメリカと世界の無邪気な人々に向かってすることはできない。ここでしか言うことができない。もし私が、我々はイスラム・テロリズムを大事にしなければならないのだ、と言ったとしたら、どれほどのショックだろうか！ 平均的な人々は、何が問題になっているのか、またエリートと言われる人たちは、時には、より大きな善のために、“統制された混乱”に依存しなければならないということを理解できない。

イスラム・テロリストたちは、代理戦争のためのすばらしい道具である——彼らは非常に安くつき、しかも勇敢に戦ってくれる。彼らは地球的な人的資源であり、どんな地方の戦争にも調達できる。また彼らは使い捨て可能であり、必要なとき利用し、要らなくなったら殺すことができる。

もしこれが、人々の良心にショックを与えるなら、それは、彼らが鋭い注意を払っていなかったということである。次のような例を考えよ——

- ・NY タイムズのトマス・フリードマンは、我々はシリアの ISIS を攻撃すべきではないと言い、むしろアサドを倒すために、ISIS を武装することを考えるべきだと言った。
- ・ジョン・ケリーは、「アメリカはアサドを強制して交渉させるために、ISIS を用いようとした」と認めた。
- ・イスラエル軍のチーフは、「イスラエルはアサドよりも ISIS を選ぶ」と説明した。
- ・イスラエルの防衛長官は、「ISIS は決して意図的に我々を攻撃しない。一度そういうことが起こったとき、ISIS は直ちに謝罪した」と言った。ワオ！
- ・ヒラリー・クリントンはこう書いた、「サウジアラビアとカタールが ISIS を援助し武装させている。」
- ・ジョー・バイデン、マーチン・デンプシー元帥、ウェズリー・クラーク元帥らすべては、中東のアメリカ同盟国が、アルカーイダと ISIS を武装させ資金を与えている、と述べた。
- ・いくつかの国務省の電信がはっきりと、サウジアラビアが世界中のテロリズムのナンバーワン資金源だと言っている——中東だけでなく。

我々は、このようなテロのスポンサーに対して、なぜ戦争を仕掛けたり制裁を課したりしないのだろうか、思ったことがあるだろうか？ なんと、我々は彼らを咎めさえしてしないのだ！

読者は、アメリカ対外政策の背後のシンクタンク、「外交問題評議会」(CFR) の発表した、「アルカーイダを受容する」というタイトルの論文を見たとき、どういう反応が起こるだろうか？ または、ヒラリー・クリントンの対外政策チーフ・アドバイザーが、「アルカーイダは我々の側だ」と書き送ったとき。

このような例はいくらでも出すことができるが、今、タイムマシーンに乗ってしばらく過去に戻ろう。

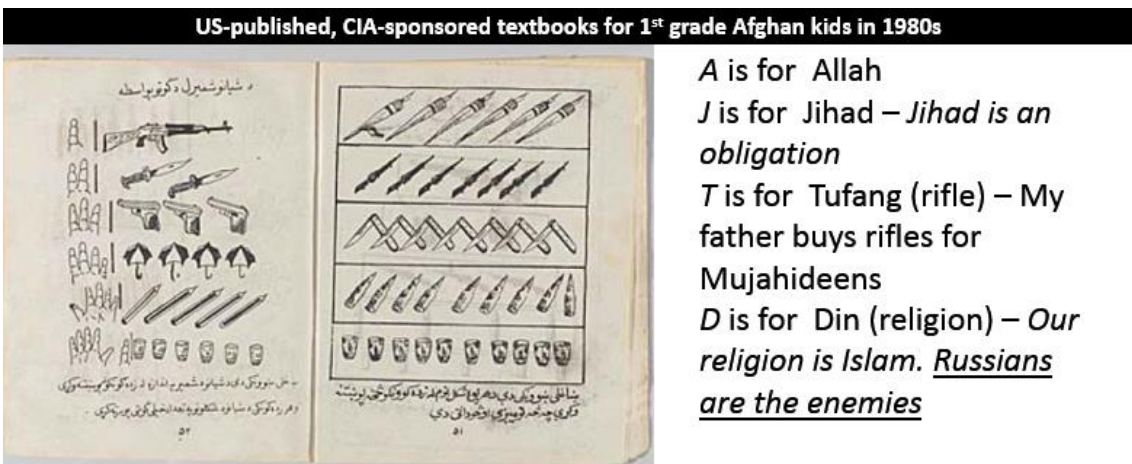
アフガニスタン、1979 - 1989。我々はムジャヒディーンを使って、ソ連を敗退させようとした。それは好いことだったのでは？ 読者は、いかにメディアとハリウッドが、1980年代のこれらアフガンの戦士たちを栄光化したかを覚えていますか？ アフガンの反乱兵たちが、ホワイトハウスを訪問させたのだった。



「ランボーⅢ」はムジャヒディーン戦士に捧げられ、レーガン大統領はアフガンのリーダーと会見した。

ムジャヒディーン物語には、しばしば忘れられる 2 つの決定的なファクターがある——世界中から集まる外国戦士であること、イスラム原理主義であることだ。1980 代には、3 万 5,000 人以上の、いわゆる“アラブ・アフガン”が世界中から集まってロシアと戦ったが、イスラムの概念や、カリフ国またはジハード（聖戦）に訴えることなしには、我々は、彼らに戦かう意欲を起こさせることはできなかつたであろう。“アラーのために戦え”という方が、“X 国のために戦え”というより遥かに効果がある。宗教に動機づけられた兵士もまた、彼らが死を恐れないがゆえに、戦場ではきわめて役に立つ。この精神構造は、自爆戦士を使うのに絶対に必要で、彼らがいなかったら、多くの戦闘も戦争も勝利することができなかつただろう。

我々はまた、刷り込みということが、よい兵士を創り出すには絶対必要なことを、サウジアラビアから学んだ。それで CIA は、アフガンの子供たちに、ジハードの概念や兵器やロシア人への憎しみを教え込むための、狡猾な教科書を作ってやってきた。



1980 年代のアメリカ出版の、CIA 援助による、アフガンの 1 年生児童用教科書

(AはAllah、JはJihad——Jihadは義務です。TはTufang (ライフル) ——ぼくのお父さんはムジャヒディーンのためにライフルを買います。DはDing (宗教) ——ぼくたちの宗教はイスラム教です。ロシア人は敵です。)

それ以来、サウジアラビアは、世界中のイスラム主義の学校——Madrasahs——に何十億ドルというカネを使った。これらの学校は、将来の活動家や過激派、また戦士たちの養成場として機能している。サウジはまた、世界中で使用される教科書を印刷している。子供たちは、“シーア派、キリスト教徒、およびユダヤ人を殺せ”というような愛の教えを学んでいる。サウジのモスクや、世界中の説教者もまた、過激主義の教えを広め続けている。



世界中にあるマドラッサス (イスラム主義学校)

アフガン戦争が勝利しそうになったとき、ムジャヒディーン・プロジェクトは、世界の他の場所でも有効そうな、素晴らしい方法ではないかと我々は思いついた。

それが、アルカーイダが創られたときだった。そしてそれは完全なタイミングだった。

それは、ハリバートン (多国籍企業) が、カスピ海近くに膨大なオイルの埋蔵を発見したばかりの時だった。しかしその地域の周りの国は、ソ連崩壊後もすべて親ロシアだった。

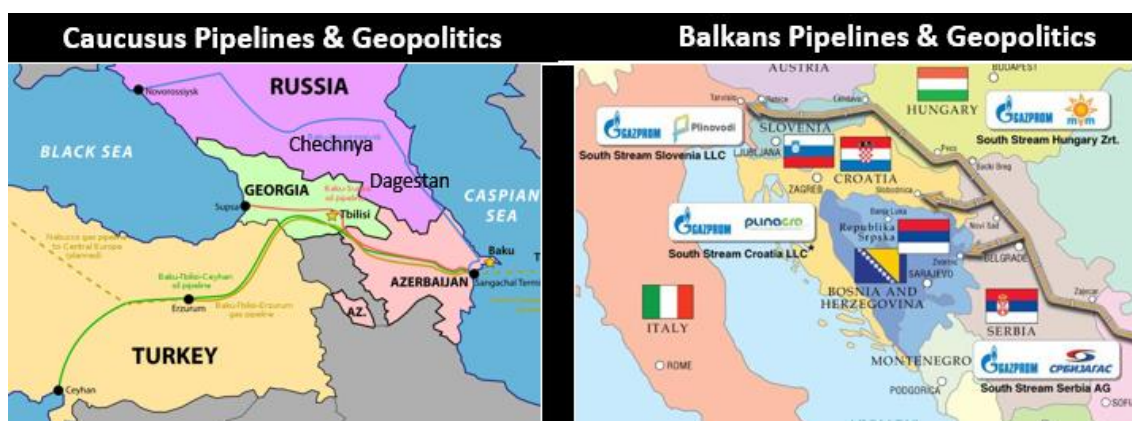
アメリカの大衆は知らされなかったが、ムジャヒディーンは 1990 年を通じて、ボスニア、コソボ、アゼルバイジャン、ウズベキスタン、ダゲスタン、チェチュニア等で、大きな活動をした。これらの戦闘者たちは、3つの大きな目的のために用いられた——

- ・親ロシア独裁者を追放し、
- ・オイル/ガス・パイプラインの建設に協力し、米軍基地を置くことに合意する、親西側リーダーを後継者にすえ、そして
- ・ロシアのパイプラインやその他の利益を妨げること

アゼルバイジャンは簡単にいき、我々は 1993 年に目的の男を追放した。ジョージア（グルジア）はかなり時間がかかった。しかしジョージ・ソロスと彼のカラー革命が、2005 年、ついに目当ての後継者をすえた。1 年足らずして我々は、アゼルバイジャン（カスピ海）、ジョージア、そしてトルコを結ぶ 1,000 マイルのパイプラインを敷いた！

チェチュニアは部分的成功だった。彼らはロシアからの独立を求めて戦っていて、したがってサウジのカネと、アメリカの武器を豊富に持っているムジャヒディーンを、喜んで迎え入れた。短期間で、非暴力的で神秘的なチェチュニアのスーフィズムが、サウジのワハビズムに占領された。

アルカーイダが、ロシアのパイプラインを爆破し始めた。ロシアは 1994 年にチェチュニアを侵略したが敗れ、退却した。当時のニュースを見るのは面白かった。しかし次いで、プーチンが 3 年後に首相になり、ジハーディストに容赦ない戦争を仕掛け、決定的に勝利し、彼自身の独裁者を地位につけた。スーフィズムでさえ後には復興し、チェチュニアは今、ワハビズムとジハーディズムを撃退し始めている。

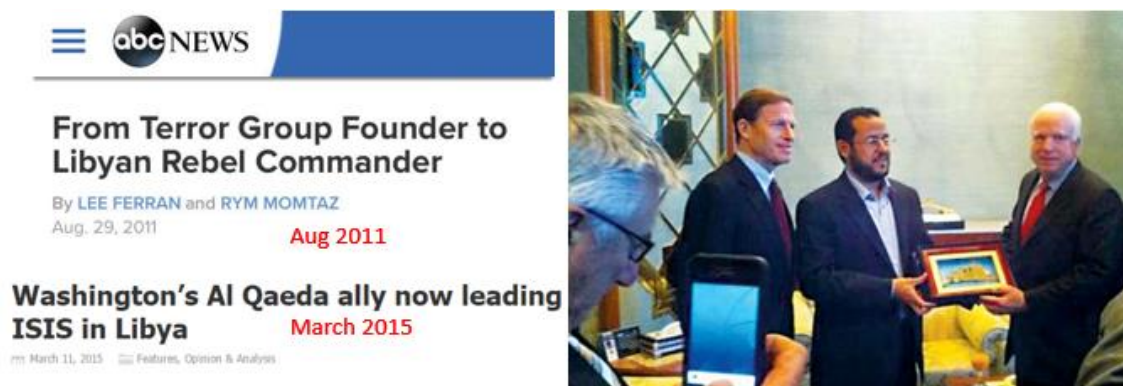


アルカーイダは、ボスニア、アルバニア、マケドニア、そしてコソボで非常に役立った。1990 年代後半には、我々は、ねつ造した罪状と NATO の爆撃を用い、セルビアの親ロシアの男を排除した。

ユーラシアの中心から離れた所では、イスラム過激主義とテロリズムは、アフリカ、中東、それにアジアで、地政学的変化をもたらす触媒としての、大きな役割を果たしている。

リビア、シリア、イエメン、それにソマリアにおいて、我々は、ムスリム同胞団、アルカーイダ、サラフィスト（過激・原理主義的なスンニ・イスラムに従う人々）に依存している。

リビアにおいて、我々は、「リビア・イスラム戦闘団」(LIFG)と呼ばれる、アルカーイダ・シンパ集団を大いに援助した。我々はそのリーダー (Belhadj) を CIA 収容所から釈放し、すてきな服を着せて、ジョン・マケインと一緒に写真を手配した。こうして彼は、残忍な独裁者カダフィと戦う自由戦士になった！



テロリスト・グループ創始者 (マケイン) から、リビア反乱軍司令官へ (2011/8 月) / ワシントンのアルカーイダ同盟軍が今、リビアの ISIS を指揮している (2015/3 月)

シリアでは、何万というアルカーイダ戦士がアサドを倒すために、世界中から飛行機で運び込まれた。もしプーチンの邪悪な介入がなかったら、我々は今ごろ、カタールのパイプラインを、シリアに通していたであろう。そしてイスラエルは、ゴラン高原でオイルの掘削をしていたであろう。これは悲劇的な状況だ。

アフリカでは、ナイジェリアが 1 億 7,000 万の人口と、オイルや天然資源の豊富な土地があり、戦略的な国である。そこでボコ・ハラム——アフリカの ISIS——が必要になる。それはいろんな意味で極めてうまくいっている。またボコ・ハラムのおかげで、ナイジェリアの半分は、人々を支配するのに便利な道具である「シャリア法」の下にある。

アジアでは、我々は、タイ、インドネシア、フィリッピンを制圧しなければならない。彼らなしには、我々はアジアの多くを中国に取られてしまう。シャリア法とサラフィズムが、インドネシアでは勢力を増しており、これはよい兆候だ。

フィリピンのキチガイ指導者ドゥテルテは、ロシアや中国とこれまで仲がよすぎた。彼は、もし ISIS のシンパ、Abu Sayyaf が十分に問題を起こしてくれさえすれば、人気を失い、首のすげ替えは簡単だろう。もし彼が ISIS に刃向かうなら、我々は“人権”と“イスラムへの敵意”を国連に訴え、制裁を課すだろう。

タイもまた、愚かにもロシア・中国影響圏へ移動しつつある。まあ、この平和な仏教国は、

南地域で、スンニ・サラフィスト過激主義に直面している。タイの指導者たちは、観光産業全体が非常に危ないことを知らなければならない——ジハーディストによる数発の爆弾と攻撃だけで、深刻な影響が生ずるのだ。



最後にヨーロッパを見てみよう。このところずっと大量難民、テロ、犯罪などで、大規模な問題が起こっている。しかし、あらゆる危機が機会になる。これを“問題 - 反応 - 解決”と呼ぶ人もいる。

テロリズムが問題、恐怖が反応、政治が解決である。

テロと犯罪は、EU内の警察を軍隊化し、ヨーロッパ全体に“NSA”監視所を設け、EU軍さえ創り出す機会を我々に与える。難民によって生じた財政的負担でさえ、緊縮財政や、福祉支出の浪費カットを取り入れる口実になる。大量移民もまた、もっとゾッとするようなヨーロッパ社会をもたらすかもしれない。今から20年後には、フランスとドイツの間にあまり違いがなくなるであろう。これはEUがもっと管理しやすくなることを意味する。…

(引用の出所と日付を示す26か所の注は省略されている。)

——以上